

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：新潟県十日町市立下条中学校

活動名：自己有用感を高める交流 小中一貫教育を核にした学校運営

解決すべき課題： <生徒> 1 小 1 中の小規模校、少人数で固定化された変化の少ない人間関係と環境
 <学校> 教員確保困難地域における若手教員の育成及び教員の資質向上

目標・方針： <目標> 各発達段階における多様なコミュニケーション活動を通して、自己有用感を高める
 <方針> 義務教育 9 年間を見通した異学年交流の実施
 小中一貫教育継続のための組織・体制づくりの確立と小中合同職員研修の実施

活動内容：

1 異学年交流

- ・児童生徒は、5 月の児童生徒集会「始めの集い」で交流活動のねらいや見通しを確認し、11 月の「報告会」でその成果を発表する。
- ・「わかば班」と呼ぶ小学 1 年から中学 3 年までの縦割り班を基本に交流活動を行う。その重点となるのは、中学 3 年と小学 1・2 年(写真 1)、中学 2 年と小学 3・4 年(写真 2)、中学 1 年と小学 5・6 年(写真 3)の異学年交流である。小学生がリードする活動と中学生がリードする活動を、各学年に応じて実施する。

2 組織・体制づくり

- ・年 3 回の小中合同職員会議を開催し、小中一貫教育の推進と継続的改善を図る。
- ・児童生徒の教育活動は、「知」「徳」「体」分野の小・中学校各主任を中心に計画・実施する。管理職、教務主任による運営推進部は、教員の資質向上を図るための学習指導や生徒指導を中心とした小中合同職員研修等を計画・実施する。また、月に 1 回程度、小中校長・教頭会を開催し、進捗状況を確認する。

活動の成果：

- ・異学年交流は、中学生の自己有用感を高める機会となった。教員は、発達段階による実態把握や目指す姿を確認できた。また、過去の取組が蓄積されて継続性のあるものになっている。市全体(10 か校)で 12 月に実施している小中一貫教育に関する生徒のアンケート結果も良好である(グラフ 1、2、3)。
- ・年 2 回の授業改善に向けた研究協議会や生徒指導に関する事例検討会兼研修会等は、多様な視点からの協議ができ、研修の質と意欲を高めている。また、諸活動を通じて行われる小中教員同士の多様な交流は、若手教員を中心に小中一貫教育への理解の深まりを促し、協働意欲を高めている(グラフ 4、写真 4)。

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- 1 小学校校舎新築(H26)に伴う中学校校舎との接続による利点の活用(写真 5)
 - ・校時表の工夫により、児童生徒の交流や教員同士の打ち合わせ等が容易である。また、施設(グラウンド、体育館、特別教師室等)や設備(ICT 機器等の教育機器)の共用ができる。
 - ・平成 30 年度より、運動会や体育祭は、小中が互いに授業日にした。また、小学校文化祭と中学校を小・中学校学園祭と同日に開催し、児童生徒の交流の質を上げた。
- 2 校舎新築と校舎接続を記念し、小中一貫教育推進のために作られた合唱曲「ヒカリ」
 - ・H25 年度の児童生徒、教職員により作詞された。「オレンジ色の風に包まれて」というスクールカラーの歌詞から始まり、学期の節目や行事の際に全児童生徒で歌い、当中学校区のシンボルとしている。(写真 6)

写真 1「楽しく遊ぼう」



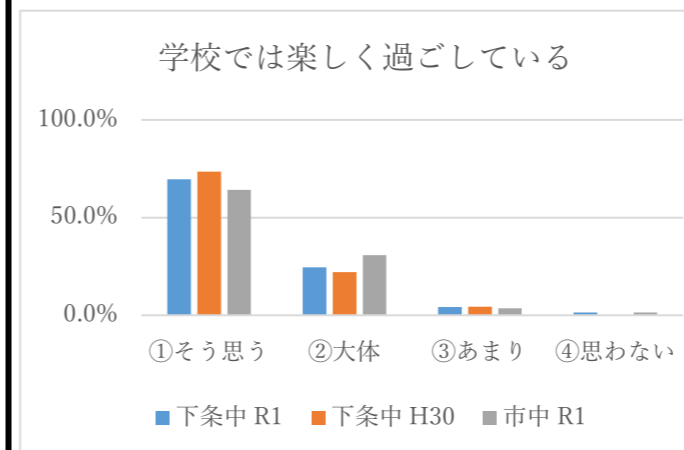
写真 2「一緒にやろう」



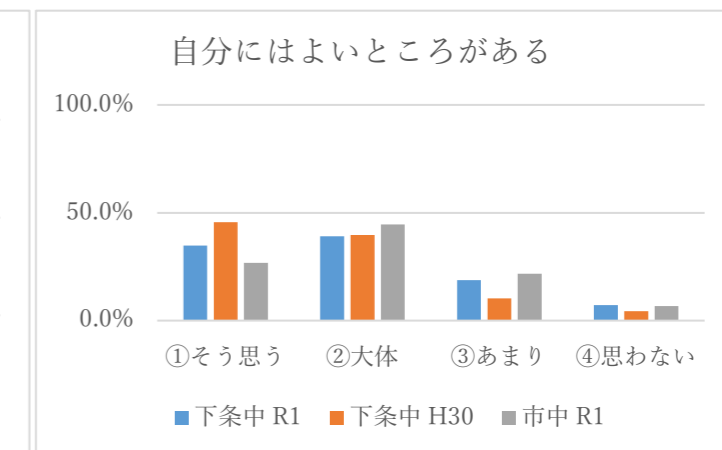
写真 3「中学校生活に備えよう」



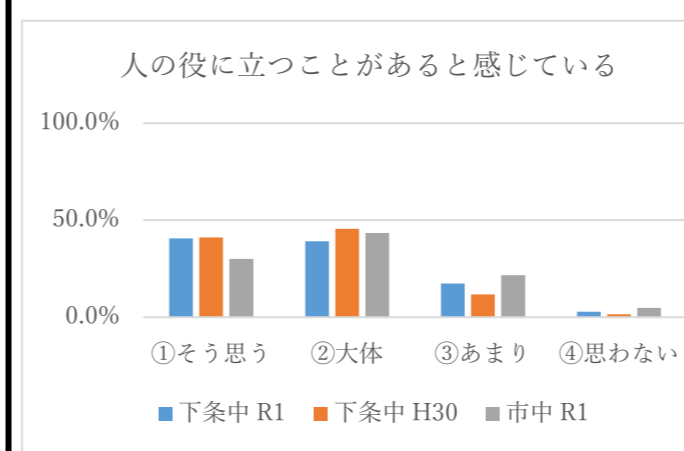
グラフ 1



グラフ 2



グラフ 2



グラフ 3

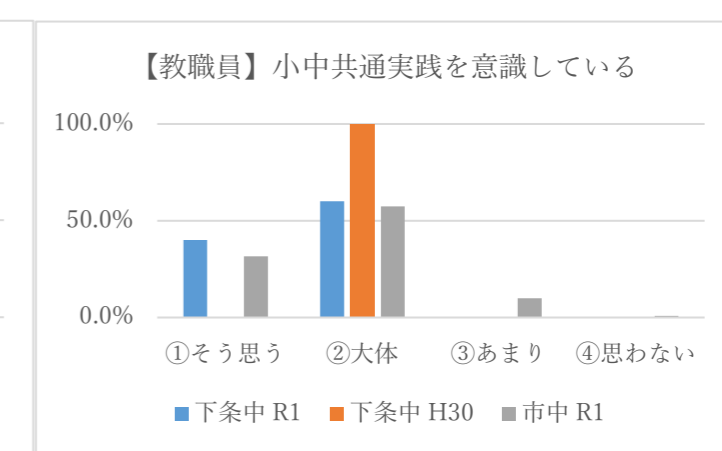


写真 4 協議会「自己有用感を高める」



写真 5「左は中学校、右は小学校」



写真 6「2 学期末ヒカリコーラスタイム」

